

平成 28 年 9 月 13 日(火)に当院 4 階大会議室にて、

茨城県指定地域リハ・ステーションケースカンファレンスを開催しました。

今回、「医療から在宅生活継続へ ～廃用を予防するための～」とのテーマで、市内で勤務されている医療・介護・行政・福祉職員を中心に参加者 91 名（内ケース紹介者 7 名）にて、グループワーク形式で①ケース検討、②地域課題の検討を行いました。

以下、その結果についてまとめましたのでご覧下さい。

## ① ケース検討について

- ・介護サービスを検討するうえで、本人を交えてどのような生活を望んでいるのか、サービス内容について話し合える場を設定することは重要である。
- ・医療と介護における連携について、共通理解をもつ機会の場を設けることが重要である。  
※住宅改修の必要性について  
※今後の生活状況の見通しについて（身体状況の把握など）
- ・利用者（患者）様が相談できるキーパーソンは誰であるかを把握することは重要であり、家族・兄弟と疎遠であるケースでは、ケアマネージャーがキーパーソンの存在になることもあり得るのではないかと。
- ・利用者（患者）様のモチベーションを高めるために関わる各職種（医療・介護・介護・福祉）が、利用者（患者）様の生きがいをみつけ活動範囲を広めることが重要である。
- ・医療と介護の連携がスムーズに流れるように、入院している時点で試験外出・外泊することで在宅での生活が可能なのか、どのようなサービス（訪問看護・訪問リハビリ・住宅改修など）を利用すれば在宅生活が可能なのかを検討することが重要である。

## ② 地域課題について

- ・現状として地域でリハビリやケアを行える資源はあるものの、交流を好む市民は積極的に参加しているが、女性の参加割合が多く男性の参加が少ない状況である。  
閉じこもりにならない対策が必要である。  
※男性だけで集まれるサロンがあっても良いのではないか。  
※独居の市民が気軽に参加できるサロンがあっても良いのではないか。
- ・現状利用できる介護予防・介護サービスなどの資源整理が必要である。
- ・訪問看護や訪問リハビリなどの資源不足への対策が必要である。